

(仮称)上越市体操アリーナは市民の了解が得られていない 日本共産党議員団、57議案のうち8議案に反対

3月26日に閉幕した3月議会では日本共産党議員団は提案された57議案のうち、2018年度一般会計予算など8議案に反対、他の議案は賛成しました。

今号では日本共産党議員団を代表して橋本正幸議員が行った討論のうち、新年度一般会計予算について言及した部分について紹介します。

新年度予算では、あいかわらず大きな施設の建設関連予算が計上されている。年々収入は減る一方、負担は増える一方という中、多くの市民からは、「今必要なのは箱モノではなく負担を軽くすること、暮らし、福祉や医療、介護、教育などのサービスを充実させることだ」という声が寄せられている。

今回の予算で、子ども医療費の未



写真は討論する橋本正幸議員。

就学児の完全無料化、保育料の第2子の半額化など、子育て世代の負担軽減を図る点や中山間地のくらしをささえる施策に引き続き留意している点は評価する。

しかし、今回の予算には、市民の暮らしを守る視点からは見過ごすことのできない問題がいくつもある。

まず指摘すべきは、23から26億円というきわめて大規模な建設費をかけて作ろうとしている(仮称)上越市体操アリーナの整備事業を進めようとしていることだ。十分な市民への説明に基づく市民の了解が得られた状況とはなっていない。

さらに、毎年指摘していることだが、学校給食調理業務の民間委託の拡大が止まらない。今年度は合計43校にまで増加する。学校給食は食育等教育の重要な一環であり、安心安全な給食提供の点からも市の直営とし、民間委託はすべきではない。残念だったのは、地域経済の活性化に資する

夢に向かって全力で努力

県立吉川高等特別支援学校の入学式は9日午後1時15分から。新入生は20人です。井部剛校長は人生の先輩からもらった便りを紹介、「(人生という道には)泥道などいろいろあり、楽ではない。ときには傷も負う。しかし、歩かない足には泥はつかない。泥がつくことを恐れず、歩み続けてほしい」と挨拶しました。

これに答えて、新入生の代表は、「新たな世界にたいする夢と希望がある。いろんな困難を乗り越え、自分の夢に向かって全力で努力していく」と誓いの言葉をのべました。

最後は池田功さん作詞、横山広一さん作曲の校歌を全員合唱しました。作詞の池田さんは旧吉川町出身で、現在、国際啄木学会会長。何度聴いてもほれほれする校歌です。



住宅リフォーム助成事業だ。国の交付金を使いにくくなったとはいえず、2017年度に比べ大きく予算規模が縮小されているのは納得できない。

新上越斎場建設の財源

合併特例債活用と明言

3月議会中に開催された厚生常任委員会では、八木智学健康福祉部長は注目すべき発言を行いました。今年度に基本構想を決めたいとしている新斎場の建設費の財源として合併特例債をあてたいと言ったのです。ご案内のように、これまで斎場建



【ミツバツツジ】ツツジ科の落葉低木。漢字で「三葉躑躅」と書きます。この時期、山の中で紅紫色の花を見つけると、たいがいはこの木です。花言葉は「平和」「愛の喜び」など。春到来の喜びに満ちていますね。

設については大きな問題となり、合併特例債を活用する条件についても議論されてきました。この問題で私は、斎場が市内に複数配置されても活用できる可能性がある」と指摘し、「国会議員事務所を通じて総務省市町村課に問い合わせてもらったところ、工夫ができれば」と感触を得ている。動いてもらえないか」と質問。市長は、「その内容で対応できれば、新しい取り組みだ」と答弁していました。

No.1853 2018.4.15

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

はしづめ法一の
活動レポート

春よ来い 第五〇一回 コシノコバイモ

ここ二週間ほど、探し続けている野の花があります。その名はコシノコバイモ。ユリ科の多年草で、四月から五月にかけて白っぽい花を咲かせます。

私が初めてコシノコバイモに出合ったのは、一〇年ほど前です。わが家から直線で一キロほど離れた里山の斜面で偶然見つけたのです。ちょうどキクザキイチゲが花時を迎えていた頃でした。下向きに咲いている花は、何となくさびしそうで、それでいながら美しい。私は一目惚れしてしまいました。

野の花の美しさにふれると、面白いもので、「もう一度あいたい」と思うようになります。コシノコバイモも例外ではありませんでした。私は翌年も同じ場所へ行きました。もちろん、見つけたときと同じ時期を選び、最初に出合った場所の周辺を探しました。しかし、その年も、さらにその翌年も見つかることができませんでした。

コシノコバイモと再び出合ったのはそれから数年後です。二度目の出合いは思わぬ形で実現しました。吉川区山方のYさん宅を訪ねたときでした。玄関ドアの外の植木鉢を見た時、私は目を疑いました。縦一五センチ、横二〇センチほどの小さな鉢の中に、十数本のコシノコバイモが整然と並び、見事な花を咲かせていたのです。葉も花も全体の雰囲気も、私が初めて見たものとまったく同じでした。

その家の人に聞くと、近くの里山で見つけたコシノコバイモの種をまいて、育てたというのでした。インターネットで調べた時に、私は、コシノコバイモという野の花は数が極めて少なくなってきたというところを確認していました。それだけに、種の段階から栽培してふやせることを知り、跳びはねたくなる思いでした。

Yさんのお宅で再び出合い、私の気持ちにも区切りがついたのでしよう。その後、わざ

わざ里山に入ってコシノコバイモを探すことはなくなりませんでした。また、山に入って野の花の写真を撮ったり、山菜採りをして、コシノコバイモと再び出合うことはありませんでした。

それが先日、安塚区のAさんに会ったことを契機に、無性にコシノコバイモにあいたくなりました。Aさんは、今年、近くの山でコシノコバイモを見たかと教えてくださったのです。「山でコシノコバイモを見た」、その言葉は、自然の中で「もう一度あいたい」という私の思いを再び呼び戻しました。

まず出かけたのは吉川区のYさんが種を取ったと思われる里山です。約一時間、山中を歩き回りました。目指すは、カタクリとキクザキイチゲの群生地です。山のどこへ行ってもシヨウジョウバカマがいっぱいありました。ときどきトキワイカリソウ、スミレ、オオイワカガミの咲き始めたばかりのものとの出合ったものの、カタクリなどの群生地はなく、コシノコバイモらしい花の姿はどこにもありませんでした。

数日後、今度は安塚区にある山に登ってみました。こちらも一時間ほど歩きまわったでしょう。吉川で登った山と違い、カタクリやキクザキイチゲの群生地が何か所もありました。チョウ舞い、シヨウジョウバカマ、ミチノクエンゴサク、スミレなどたくさん野の花と出合いました。それはそれで大いに楽しむことができたのですが、ここでもコシノコバイモの花を見つけることができませんでした。

コシノコバイモの花言葉は、「母の優しさ」。見つけることが困難であればあるほど花への思いは募ります。今年花が早く、ここ一週間ほどが最後のチャンスかも。一〇年ほど前に初めて出合った場所へもう一度出かけてみようと思います。今度こそあいたい。

2人の女性が成人式で誓いの言葉



7日は成人式でした。今年の成人式の対象者は2083人。このうち参加者は1700人くらいだったでしょうか。

市長や議長の挨拶に続いて、新成人を代表して金子実樹さん、中村静華さんがスピーチしました。2人とも女性というのはめずらしいですね。

このうち金子さんは、「全力でサポートしてくれた両親にこれから恩返ししていきたい。昨年から務めている地域の福祉施設でやりがいを感じて

いる。こんな仕事をしたい、こんな勉強したいと、いままで漠然としていた自分の未来像が具体的になった。上越に貢献できるよう努力していく」と力強く決意をのべました。

中村さんも「今日の日本は、少子高齢化が急速に進み、小児医療をとりまく環境は厳しくなっている。私は小児医療に携わる看護師になれるよう勉強や実践に励み、将来的には小児救急看護認定看護師になりたい」と決意表明をしました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月4日(水)	4月11日(水)
上越南消防署	0.043	0.043
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.053	0.050
東頸消防署	0.043	0.047
高士分遣所	0.047	0.047
名立分遣所	0.050	0.050

26日に議会報告会開催

日本共産党議員団は4月26日(木)、午後6時半から市民プラザにおいて議会報告会を開催します。今回は3月議会で大きな問題となった(仮称)上越市体操アリーナ建設や庁舎再編に伴うガス水道局庁舎新築などについて報告するほか、参加者の皆さんからのご意見、ご提案をじっくりお聞きしたいと思っております。ぜひお出かけください。